

奈良県の 農産・園芸・水産



奈良県の農産・園芸・水産

目次

1 概要	自然的条件	1
	統計	2
	産地マップ	5
2 生産状況	水稲・麦・大豆	6
	野菜	7
	薬用作物	8
	果樹	9
	花き・植木	10
	茶、環境保全型農業	11
	水産業	12
3 研究の取組み		13



レンゲ(緑肥作物)

景観に良く、すき込むと緑肥になります

はじめに

本県は、都市近郊という立地の良さや恵まれた自然条件を活かし、全国に誇れる農業を展開している反面、農産物価格の低迷や担い手の高齢化など、県農業を取り巻く環境は厳しさを増しています。

こうした中、県では奈良らしい農業・農村の活性化を図るため、マーケティング・コスト戦略に基づき、県産農水産物の高付加価値化、高品質化によるブランド化や販路開拓等に積極的に取り組んでいます。

また、農業をチャレンジ産業の一つとして位置づけ、生産から流通、加工、販売までの一気通貫した取り組みを行うことで、農業の一層の発展につなげていきます。

この冊子は、地域の特性を活かし、高度な技術を駆使して展開している農産・園芸・水産部門の一端を紹介し、皆様方のご理解を深めていただくために作成しました。

平成28年3月

1 概要

自然的条件

① 気象

(奈良)

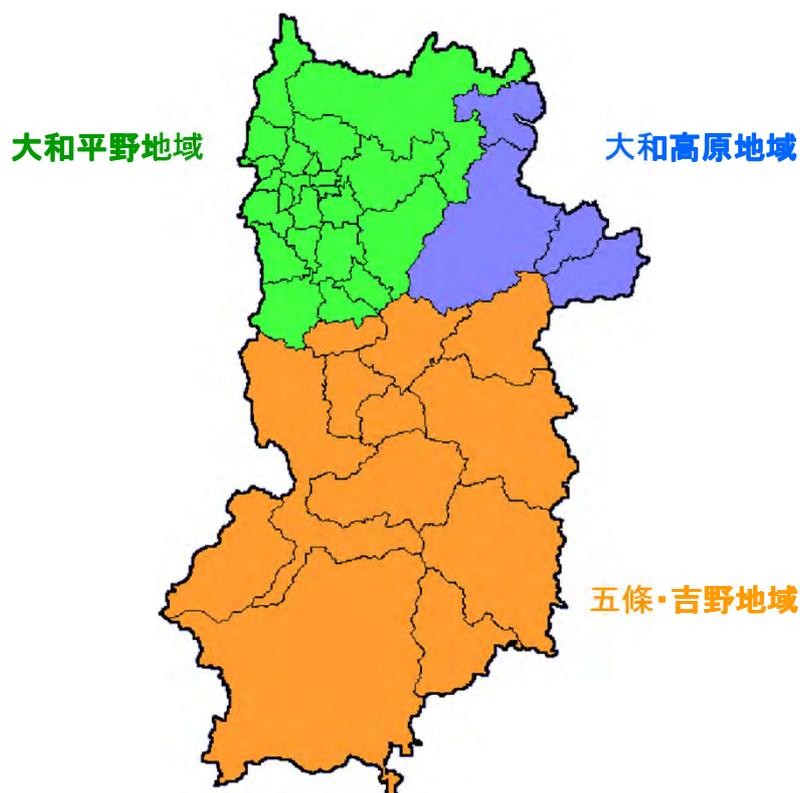
年平均気温	年降水量	年間日照時間	年平均月最高気温	年平均月最低気温
14.9℃	1,316mm	1,823h	20.4℃	10.3℃

※奈良地方気象台の地上気象観測年別平均値
(統計期間1981～2010年)

② 地勢

面積	南北	東西
3,691km ²	103.4km	78.6km

■ 地域区分



南北103.4km、東西78.6km、面積は3,691km²。国土の約1%を占めている。

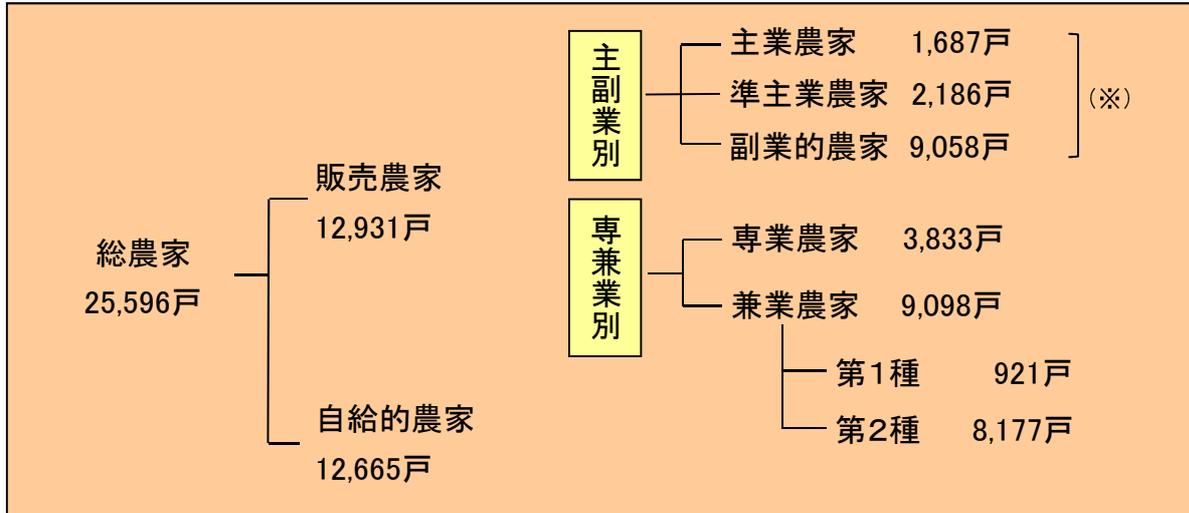
○「大和平野地域」は標高概ね100m以下の平地からなる奈良盆地を中心とする地域

○「大和高原地域」は県北東部に位置する標高200～500mの中山間地域

○「五條・吉野地域」は大部分が山間地域

統計

① 農家数



2015年農林業センサス(概数値)

② 耕地 (ha)

耕地面積		
	田	畑
21,800	15,500	6,270

耕地及び作付面積統計(平成27年)

③ 食料自給率 (%)

カロリーベース	生産額ベース
14	25

農林水産省試算(平成25年度概算値)

(※) 主業農家

農業所得が主(農家所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家をいう。

準主業農家

農外所得が主(農家所得の50%未満が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家をいう。

④ 産出額 (億円)

農業産出額	耕種部門産出額
402	338

生産農業所得統計(平成26年)

副業的農家

調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない農家(主業農家及び準主業農家以外の農家)をいう。

⑤ 作物別産出額 (億円)

米	麦類	雑穀・豆類	野菜	いも類	果実	花き	種苗 花木類 他	茶	その他
86	1	1	116	5	82	37	4	14	57

生産農業所得統計(平成26年)

麦類は県推計値

⑥ 主要品目別生産量

● 水稲・麦・大豆（平成26年産）

	水稲	小麦	大豆	小豆
作付面積(ha)	9,040	109	173	34
収穫量(t)	46,500	273	256	-
産出額(億円)	86	1	1	

農林水産省 農林水産統計

小麦の産出額は県推計値

● 野菜（平成26年産）

	イチゴ	ホウレンソウ	ナス	トマト	ネギ	キュウリ
作付面積(ha)	112	301	96	74	123	78
収穫量(t)	2,300	3,730	6,370	4,310	2,770	2,670
産出額(億円)	18	17	15	9	9	-

	サトイモ	ダイコン	ハクサイ	スイカ
作付面積(ha)	93	104	105	86
収穫量(t)	1,420	4,230	4,250	2,170
産出額(億円)	-	-	-	-

農林水産省 農林水産統計

● 果樹（平成26年産）

	カキ	ウメ	ブドウ	ナシ
栽培面積(ha)	1,860	360	73	76
収穫量(t)	32,600	2,750	810	1,950
産出額(億円)	63	3	5	4

農林水産省 農林水産統計

● 花き・花木(平成26年産)

	切 花			花壇用苗もの類		鉢もの類		花木	
	キク	バラ	切枝		パンジー		シクラメン		
作付面積(ha)	264	117	6	126	45	13	12	3	36
出 荷 量 (千本・千鉢)	70,000	49,400	4,642	8,040	32,400	9,020	1,230	478	420
産出額(億円)	24	14	3	6	10	2	3	-	4

農林水産省 農林水産統計
切花バラの作付面積、出荷量は県調べ

● 茶(平成26年産)

茶 期 別	全 体	一番茶	二番茶	冬春秋番茶
荒茶生産量 (t)	1,810	1,110	317	380

茶 種 別	おおい茶	普通煎茶	番 茶
荒茶生産量 (t)	453	457	891

栽培面積(ha)	730
産出額(億円)	14

農林水産省 農林水産統計

● 水産(平成26年産)

河 川 漁 業	ア ユ	アマゴ
漁 獲 量 (t)	34	14
漁 獲 高 (億円)	0.8	0.2

農業水産振興課調べ

食用魚養殖業	アマゴ
生 産 量 (t)	16
生 産 額 (億円)	0.2

生産量:農林水産省 農林水産統計

生産額:農業水産振興課調べ

観賞魚養殖業	金 魚	錦 鯉
販売数量(万尾)	6,596	0.4
販売金額(億円)	7.5	0.01

農業水産振興課調べ

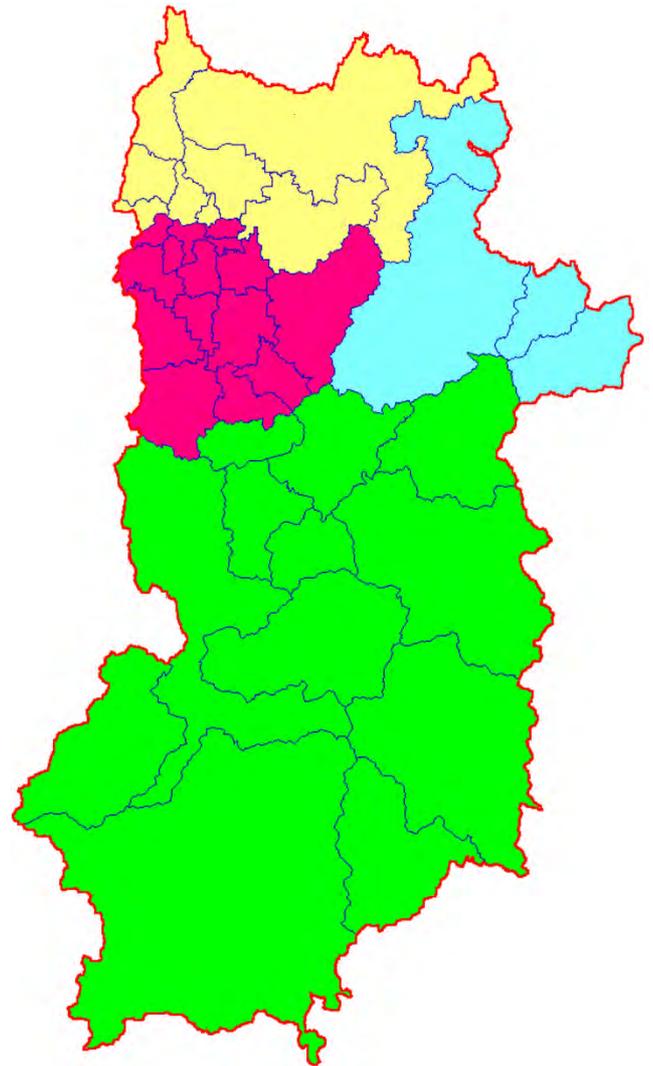
奈良県の農産・園芸・水産マップ

(米は県内全域にあるため省略)

北部農林振興事務所	奈良市	イチゴ、ナス、ネギ、シュンギク、バラ、花壇苗、鉢花、花木類、茶、キハダ
	天理市	イチゴ、トマト、ナス、ハウレンソウ、カキ、ブドウ、バラ、花壇苗、茶、小麦、金魚、錦鯉
	大和郡山市	イチゴ、トマト、ナス、ネギ、シュンギク、イチジク、筒井れんこん、花壇苗、花木類、金魚、錦鯉
	生駒市	トマト、黒大豆
	平群町	イチゴ、キク、バラ、ブドウ、切り枝
	三郷町	ブドウ
	斑鳩町	イチゴ、ナス、ハウレンソウ、ナシ、バラ
	安堵町	イチゴ、トマト

中部農林振興事務所	橿原市	イチゴ、アスパラガス、花壇苗、鉢花、小麦
	桜井市	小麦、ソバ、イチゴ、ダイコン、ハウレンソウ、ミカン、バラ、鉢花、花壇苗、アユ、アマゴ、大豆
	川西町	トマト、ハウレンソウ、ネギ、結崎ネブカ
	三宅町	イチゴ
	田原本町	小麦、イチゴ、トマト、ナス、ハウレンソウ、味間いも、バラ、球根切り花、花壇苗
	高取町	イチゴ、トマト、ナス、バラ、トウキ
	明日香村	イチゴ、軟弱野菜、キュウリ、ミカン、鉢花、花壇苗、キク、トウキ
	大和高田市	ネギ、軟弱野菜、鉢花
	御所市	ヤマトイモ、サトイモ、鉢花、花壇苗、花木類、カキ
	香芝市	イチゴ
	葛城市	ナス、ネギ、キク、鉢花、小麦、花壇苗
	上牧町	イチゴ
	王寺町	
広陵町	小麦、イチゴ、ナス、軟弱野菜、花壇苗	
河合町	ブドウ、イチゴ	

東部農林振興事務所	山添村	ハウレンソウ、片平あかね、球根、茶、アユ、花壇苗、キハダ
	宇陀市	ハウレンソウ、ミズナ、ハクサイ、レタス、エダマメ、ブロッコリー、宇陀金ごぼう、切り花、鉢花、花壇苗、球根、花木類、茶、黒大豆、小豆、アユ、アマゴ、ブルーベリー、トウキ
	曽爾村	トマト、ハウレンソウ、ミズナ、シュンギク、アユ、アマゴ
	御杖村	トマト、ハウレンソウ、ミズナ、アユ、アマゴ



南部農林振興事務所	五條市	トマト、ナス、イチゴ、キュウリ、ミョウガ、香りごぼう、カキ、ウメ、花壇苗、切り枝、アユ、アマゴ、トウキ
	吉野町	ナス、ヒノキ苗、ワラビ、アユ、アマゴ、トウキ
	大淀町	ナス、ナシ、茶、アユ
	下市町	スイカ、ハクサイ、カキ、ウメ、キク、バラ、アユ、アマゴ、切り枝
	黒滝村	コンニャク、黒滝白きゅうり、切り枝、アユ、アマゴ
	天川村	ワサビ、アユ、アマゴ
	野迫川村	ワサビ、アマゴ
	十津川村	ワサビ、切り枝、アユ、アマゴ、トウキ、ミシマサイコ
	下北山村	ミョウガ、下北春マナ、アユ、アマゴ
	上北山村	アユ、アマゴ
	川上村	アユ、アマゴ
	東吉野村	茶、アユ、アマゴ

2 生産状況

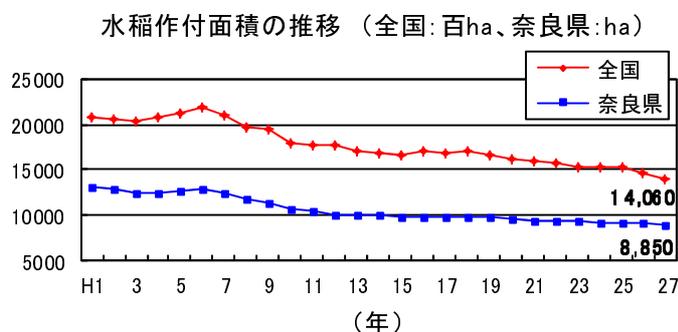
水稲・麦・大豆

水稲

本県での水稲の位置づけは、農業産出額(平成26年)で見ると農業全体の約21%です。平成27年の水稲作付面積は8,850haで、耕地面積の41%を占めています。

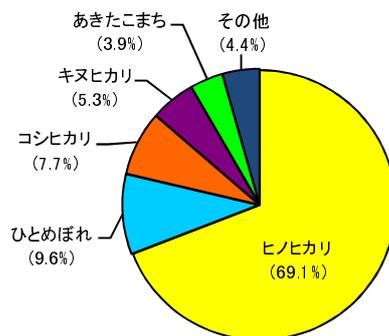
平成22年のセンサスによると水稲を作付した経営体数は、13,635戸で、全経営体の90%になります。

平成26年の品種別面積比率は図のとおりです。「ヒノヒカリ」は、「米の食味ランキング」において平成22年産より6年連続で特A評価を得ています。



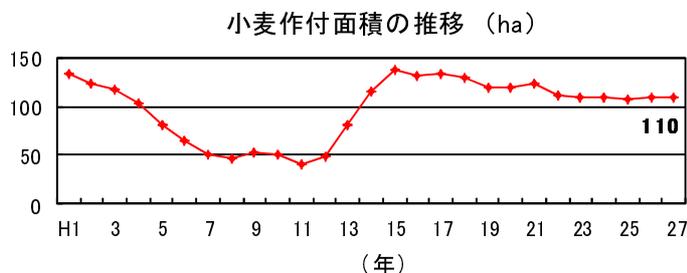
ほ場整備された水田での水稲の収穫

水稲品種別面積比率(平成26年奈良県推計)



麦類

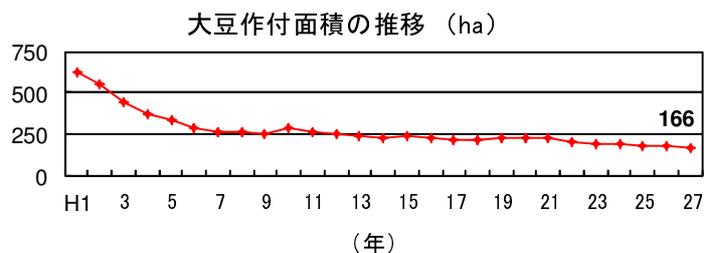
麦類はほとんどが小麦であり、桜井市、田原本町を主産地として集団で作付けされています。



小麦の集団栽培

大豆類

大豆はほとんどが地場消費用の小規模な作付けですが、一部で集団栽培も行われています。また、県内各地で味噌加工や直売等の取り組みがなされています。



大豆の集団栽培

ソバ

ソバは、桜井市笠地区などで栽培されています。



ソバの花

野菜

イチゴ

イチゴは現在、促成作型を中心に約112ha栽培されています。(天理市、大和郡山市、奈良市他)

品種は食味が良く栽培しやすい県育成品種“アスカルビー”をはじめ、“古都華”などが栽培されています。また、作業姿勢を改善した高設栽培の導入が進んでいます。



イチゴの高設栽培

軟弱野菜

ホウレンソウ(天理市、宇陀市、曽爾村、御杖村)、青ネギ(葛城市、大和高田市)、ミズナ(宇陀市、曽爾村)、シロナ(大和高田市)、コマツナ(田原本町、宇陀市)、アスパラガス(橿原市)が栽培されています。

ホウレンソウ、アスパラガスはハウスによる栽培、青ネギ、シロナ、コマツナは露地栽培が中心となっています。



ホウレンソウ

ナス

夏秋期の露地栽培と冬春期のハウス栽培が行われています。露地栽培での単位面積当たり収量は全国でもトップクラスです。(五條市、広陵町、天理市)

トマト

平野地域でのハウスを利用した促成・半促成栽培と中山間地域での雨よけ夏秋栽培に大別されます。糖度の高い完熟系などの品種が導入されています。(天理市、五條市、大和郡山市)



ナス

キュウリ

露地やハウスで白イボ品種が栽培されています。(五條市、桜井市)

夏秋期の露地栽培と秋冬期のハウス栽培が行われています(五條市、桜井市)

スイカ

昭和初期の大和スイカ全盛期には1,000haを越える作付けがありました。現在は約86haまで減少しています。(天理市、下市町、五條市)

種子供給県としては全国一です(田原本町)。



トマト

いも類他

サトイモ(御所市、天理市、桜井市)、ヤマトイモ(御所市)、ゴボウ(宇陀市)、ミョウガ、山菜類(吉野郡)が栽培されています。

大和野菜

平成17年10月、本県の特産品として特徴をアピールできる「大和の伝統野菜」と「大和のこだわり野菜」を新しい奈良のブランドとして位置づけ、これまで25品目を認定しています。

「大和の伝統野菜」とは、戦前から本県での生産が確認されている品目で、地域の歴史・文化を受け継いだ独特の栽培方法等により、「味、香り、形態、来歴」などに特徴を持つもの、「大和のこだわり野菜」とは、栽培や収穫出荷に手間をかけた栄養やおいしさを増した野菜や本県オリジナル野菜などです。

「大和の伝統野菜」(20品目)

祝だいこん、宇陀金ごぼう、黄金まくわ、片平あかね、小しょうが、下北春まな、千筋みずな、軟白ずいき、花みょうが、ひもとうがらし、大和いも、大和きくな、大和三尺きゅうり、大和まな、大和丸なす、結崎ネブカ、紫とうがらし、筒井れんこん、味間いも、黒滝白きゅうり

「大和のこだわり野菜」(5品目)

朝採り野菜(レタス、なす、きゅうり)、香りごぼう、半白きゅうり、大和寒熱ほうれん草、大和ふとねぎ

近年では、県内をはじめ首都圏などへの出荷が増えています。



大和の伝統野菜



大和のこだわり野菜



大和まな

薬用作物

薬用作物には、大和高原北部(奈良市、山添村)を中心としたキハダ(オウバク)や吉野地域を中心とするトウキ、ミシマサイコなどがあります。

奈良県では、薬用作物の生産から販売までの一体的な取り組みとして「漢方のメッカ推進プロジェクト」により振興を図っており、県内産地で新規作付が進んでいます。



トウキ(当帰)

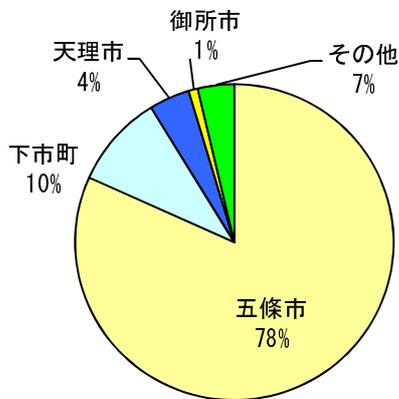
果樹

カキ

カキは全国2位の生産量があり、五條・吉野地域や天理市、御所市で多く栽培されています。主な品種は“刀根早生(とねわせ)”、“平核無(ひらたねなし)”、“松本早生富有(まつもとわせふゆう)”、“富有(ふゆう)”です。品種や栽培法、貯蔵法を組み合わせることによって7月上旬から翌年1月まで出荷されています。

輸出にも取り組んでおり、香港、タイ国などに62 t(平成27年)を輸出しています。

市町村別柿栽培面積割合



(農林水産統計に基づく県推計)

ハウス栽培は、昭和55年に始まり、現在、五條市、下市町で栽培されています。

「ハウス柿」の生産量は全国1位で、品種は“刀根早生”で、栽培面積は約13haです。7月上旬から全国に先駆けて収穫が始まり、9月中旬まで出荷されています。



刀根早生のハウス栽培



柿博物館

ウメ

五條・吉野地域で多く栽培されています。主な品種は“鶯宿”、“白加賀”、“南高”で、5月下旬から7月上旬まで出荷されています。

市場出荷の他、加工業者向けにも出荷され、梅酒、梅ジュース、梅干し、梅エキス用などに加工されています。



ウメ

ナシ

大淀町、斑鳩町で栽培されています。

主な品種は大淀町では“二十世紀”、斑鳩町では“幸水”、“豊水”で、8月中旬から9月下旬まで直売を主体に販売されています。

ブドウ

主に平群町、河合町で栽培されています。

主な品種は“デラウェア”、“巨峰”で、ハウス栽培の作型を組み合わせ、5月下旬から8月下旬まで近郊市場への出荷と地元での直売が行われています。

イチジク

平坦部の水田果樹として主に大和郡山市で栽培されています。主な品種は“榊井ドーフィン”で、栽培面積は約28haです。5月上旬から10月下旬まで近郊市場を中心に出荷されています。



イチジク(榊井ドーフィン)

花き・植木

キク（切り花）

キクは主に露地栽培で5～11月に出荷されています。質・量ともに全国有数の地位を築いており、特に小ギクは全国2位、二輪ギクは全国1位の生産量を誇っています。

また平成24年度には県育成の小ギク“春日の紅”を、平成27年度には県育成の二輪ギク“千都の舞”、“千都の風”を品種登録しました。さらに、平成27年度に小ギク1品種、二輪ギク2品種を登録出願中です。（小ギク：平群町、輪ギク：葛城市、下市町他）



ネットハウス内での小ギクの栽培

二輪ギク

ダリア（球根・切り花）

球根養成（宇陀市、山添村）及び切り花出荷（宇陀市、葛城市）が行われています。切り花は6～10月出荷の露地栽培が主で、ハウス栽培で11～5月出荷の冬春切りの作型もあります。



切り花ダリアの収穫

鉢もの

シクラメンやポインセチアなどが生産されています。（桜井市、橿原市、御所市、宇陀市、葛城市他）



シクラメン圃場

バラ（切り花）

施設での周年切り中心の作型が主流で、従来からの土耕栽培の他にロックウール栽培、少量培地耕が普及しています。（平群町、奈良市、天理市、桜井市他）



平群温室バラ組合・バラ団地

花壇用苗もの

パンジー・ビオラを中心に生産されており、パンジーは全国3位の生産量を誇ります。（県内全域）



花壇用苗もの

枝もの（切り花）

ハナモモ、サクラ、レンギョウ等の花木の促成出荷や、クマザサ、チョウセンマキ等の栽培が行われています。（五條市、平群町、下市町他）



クマザサ

花木類（植木）

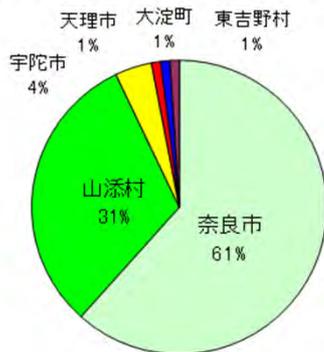
県特産品である台杉を中心とした生産が行われています。（大和郡山市、御所市、宇陀市、他）

茶

「大和茶」は、奈良市、山添村、宇陀市、天理市、大淀町、東吉野村の冷涼な気候の下で栽培され、良質な煎茶やかぶせ茶が生産されています。

最近では食品加工用でん茶の需要増加に伴い、でん茶の生産量が増えてきています。

市町村別茶栽培面積割合(農林水産統計に基づく県推計)



優良茶園の風景

大和高原に広がる造成茶園。防霜扇が整備された緩傾斜地に緑の縞模様が広がり独特の景観を形成しています。

環境保全型農業

土づくりを基本とした環境保全型農業の推進に取り組んでおり、現在、奈良県での有機農業の取組面積は99ha(平成26年)、エコファーマー認定数は平成26年度末、561人となっています。

有機農産物を始め、エコファーマーの農産物の生産・消費拡大を図るため、奈良県の環境にやさしい農業シンボルマークの認定を行っています。



奈良県の環境にやさしい農業シンボルマーク



乗用型茶摘採機

一人で収穫作業ができるため、効率化・省力化が図られ、県内の茶産地で導入が進んでいます。



機械化された大型自動製茶工場

コンピューターで統合制御された製茶工場では自動的にお茶が加工されます。

各エコファーマーの主要作付品目件数(H27.3)



エコファーマーと消費者交流会

水産業

奈良県では、吉野川(紀の川)、新宮川、淀川、大和川の4水系の河川でアユやアマゴなどを対象に釣りによる漁業が行われています。また、山間部で豊かなきれいな水を利用してアマゴ等食用魚の養殖が、大和平野でかんがい用水を利用して金魚を主体とする観賞魚の養殖が行われています。

『県のさかな』

県民の皆様には魚への親しみを持っていただき、これらを育む水環境への関心を高めていただくため、「きんぎょ」「あゆ」「あまご」の3魚種を県のさかなに制定しています。

河川漁業

22漁業協同組合が河川漁業を行っており、吉野川・熊野川の本支流や大和川・淀川(名張川)の上流域ではアユやアマゴを、大和川下流域や他の3水系のダム湖等ではコイやフナを中心に漁業が行われています。また、アユ漁業の振興のため、生まれも育ちも奈良県であるダム湖産天然アユの有効活用に取り組んでいます。さらに、カワウの食害による漁業被害が多いことから、カワウの一定数の駆除に取り組むことで、内水面漁業・養殖業の経営の安定化を図っています。



アユ漁の解禁風景

養殖業

アマゴ

主な生産地は、吉野郡や宇陀郡で、養殖されたアマゴは河川漁業の放流用のほか、地元へ食用出荷や甘露煮などの加工品としても利用されています。

金魚

大和郡山市を中心に、水田を改良した養魚池等で養殖されています。奈良県は金魚の国内有数の産地で、生産された金魚は市場、問屋等を通じ全国に出荷されています。

その他

大和平野のため池を利用して、コイ、フナが古くから養殖されています。また、生産量はわずかですが、アユ、イワナ、ニジマスが吉野郡で地元向けに養殖されています。



アマゴ養殖場



金魚の養殖場



観賞魚市場のせり風景

3 研究の取組み

農業の担い手を支援するため、農業研究開発センターの研究成果と現在取り組んでいる内容を紹介します。

1. 野菜

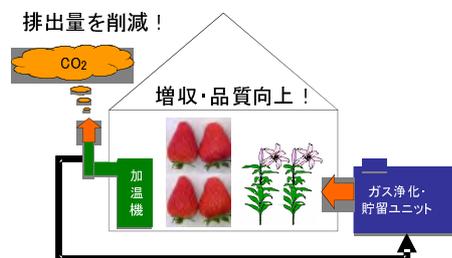
- 作りやすく・おいしいイチゴの育種や低コスト・省エネ生産技術の開発



イチゴ新品種「古都華」の育成



間欠冷蔵処理による
花芽分化促進技術の開発



加温機排気中CO₂の
回収貯留システムの開発

- 大和野菜等の高品質化・高付加価値化のための技術開発と新品種の育成



F₁大和マナ新品種
「夏なら菜、冬なら菜」の育成



辛くない燃焼成分(カプシエイト)を持つ
「やまと甘なんばん」の育成と食材活用



商品性の高い新たなイチゴ品種の育成

2. 花き

- 小ギク、二輪ギクでの省力化技術と新品種の育成



耐高温性小ギク新品種
「春日の紅」の育成



小ギクの一斉機械収穫・調製システムの開発



無側枝性二輪ギク
「千都」シリーズの育成

- キク、鉢花・花壇苗、ダリア、切り枝花木など、奈良県特産花きの高品質安定生産技術の開発



シクラメン・花壇苗の高温対策技術の開発



ダリアの切り花・球根生産技術の開発



切り枝花木の安定生産技術の開発

3. 果樹

●カキ優良品種の育成と遺伝資源の保存

渋抜き不要 甘柿
栽培容易 渋柿

遺伝子解析

遺伝子解析によるカキの新品種の育成

御所柿の安定生産技術の開発

●生産現場ニーズに即応した栽培技術の開発

早期成園化を可能とするカキ大苗育苗技術

ハウス柿凸凹果の軽減技術の開発

炭疽病 樹幹害虫

凸凹果 (ゴリ果)

カイガラムシ等のフェロモントラップを利用した防除

フジコナカイガラムシ

カキの難防除病害虫防除技術の確立

4. 水稲・麦・大豆

●地域特性に応じた穀類の品種選定と品質向上技術の開発

小麦「ふくはるか」の加工適性向上技術の開発

奈良「特A米」品質向上技術の開発

奈良オンリーワン酒米品種の育成

5. 茶

●茶の早期成園化および実需者ニーズに対応した加工技術の開発

茶のポット育苗による早期成園化技術の開発

ドラムドライヤによる高級粉末茶の開発

6. 中山間地特産物・イチゴ無病苗

●高原野菜の技術開発とイチゴ無病苗の確保

高糖度ホウレンソウ栽培技術の開発

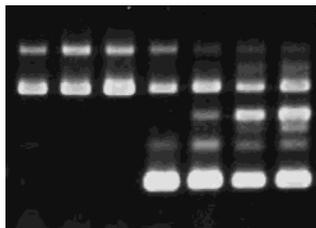
イチゴ無病苗増殖と萎黄病の検定

7. バイテク技術

- バイオテクノロジーによる機能性評価と育種技術の開発



血圧抑制効果の評価



DNAマーカーによるトウキの優良品種の育成

8. 薬用作物

- 薬用作物の低コスト、高品質、安定生産技術の開発



マルチ資材の検討



湯もみ機の検討

ヤマトウキの栽培技術の開発

9. 環境保全

- 県内産農産物の安全性を確保し環境負荷の少ない農業技術の開発



土壌養分、有害金属、残留農薬の分析



施設栽培の塩類集積実態の把握と改善技術の開発

- 耕作放棄地の再生と利活用技術の開発



耕作放棄地



緑肥栽培



緑肥すき込み後のダイコンの生育

有機物投入(緑肥)による地力回復技術の開発

10. 病虫害防除

- 土着天敵を活用した減農薬管理技術、簡易露地ネットや病原菌の遺伝子診断技術による総合的防除技術の開発



天敵を増やす植生管理

天敵を保護する管理

天敵温存植物マリーゴールド

アザミウマの天敵ヒメハナカメムシ

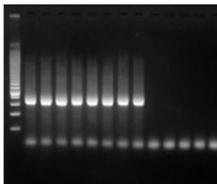
露地ナスにおける選択性殺虫剤体系による土着天敵の保護と増強技術の開発



DNA抽出



PCR



感度:従来法の3倍
スピード:1ヶ月→3日
精度:病原性判別が可能
イチゴ苗の健康診断

イチゴ炭疽病と萎黄病の迅速診断技術の開発



飛ばないナミテントウ



アブラムシを捕食

飛ばないナミテントウを利用した施設スイカでのアブラムシ防除技術の開発

11. 新商品素材の開発・発掘

- 地域農産物を利用した食品加工や新たな商品素材の開発



新品種「太天」の干し柿



カキの糖蜜漬

新しいカキ加工品の開発



新しいイチジク加工品の開発



低カロリーイチジクジャム



イチジクグラス



カキ葉の栽培と加工技術の開発



奈良式柿タンニン

柿タンニンを活かした「特定保健用食品」等の開発



編集：奈良県農林部農業水産振興課
平成27年度発行